

乳癌 28

対象疾患: 乳癌(術後化学療法)

【0228】PER+HER+PTX 療法 (PER+HER: 3 週毎、PTX: 1 週毎)

※初回投与時は、「乳癌 28a HER+PTX 療法【初回】(PER:840mg HER:8mg/kg 3 週毎、PTX:1 週毎 80mg/m²)」を使用してください

【投与スケジュール】 1 コース=21 日

1 コース

一般名	商品名	略号	投与量	1W	2W	3W	4W
ペルツズマブ	パージェタ	PER	420mg/body	↓ Day1			↓ Day1
トラスツマブ	トラスツマブ	HER	6mg/kg	↓ Day1			↓ Day1
パクリタキセル	パクリタキセル	PTX PAC TXL	80mg/m ²	↓ Day1	↓ Day8	↓ Day15	↓ Day1

【投与日のタイムテーブル】

滴下順	薬品名	用量	投与時間
Day1			
内服	レスタミン錠(10mg)	5錠	① 投与中内服
①	生理食塩液 50mL	1 本	ルート確保用
②	パージェタ	420mg/body	30 分
	生理食塩液 250mL	1 本	
③	トラスツマブ	6mg/kg	(* ²) 90 分
	注射用水	(* ¹) 適量	
	生理食塩水 250ml	1 本	
④	デカドロン(3.3mg)	3A	15 分
	ファモチジン 20mg	1A	
	生理食塩水 50ml	1 本	
⑤	グラニセトロンバック 3mg/100mL	1 本	30 分
⑥	パクリタキセル	80mg/m ²	60 分
	生理食塩液 250mL	1 本	
⑦	生理食塩液 50mL	1 本	ルートリンス
Day8.15			
内服	レスタミン錠(10mg)	5錠	① 投与中内服
①	デカドロン(3.3mg)	3A	15 分
	ファモチジン 20mg	1A	
	生理食塩水 50ml	1 本	

②	グラニセトロンバック 3mg/100mL	1 本	30 分
③	パクリタキセル	80mg/m ²	60 分
	生理食塩液 250mL	1 本	
④	生理食塩液 50mL	1 本	ルートリンス

(※¹)トラスツマブ 1 バイアル (150mg) あたり注射用水 7.2mL に溶解、必要量抜取り

(※²)トラスツマブは、初回投与の忍容性が良好ならば、2 回目以降は投与時間を 30 分まで短縮可
デカドロンは過敏症状がなければ半量ずつ(最低 1mg まで)減量可

<パクリタキセル>

インラインフィルター(0.22 ミクロン以下)を使用すること

DEHP フリー(もしくは PVC フリー)の点滴セットを使用すること

輸液ポンプを使用する場合は、濾過網の組み込まれた輸液セットは使用しないこと

【催吐性リスク】

パージェタ:最小度

トラスツマブ:最少度

パクリタキセル:軽度

【組織障害性】

パージェタ:非炎症性(メーカー回答)

トラスツマブ:非炎症性

パクリタキセル:壊死性

【注意事項】

(パージェタ)

- 初回投与は 60 分投与とし、忍容性が良好ならば、2 回目以降は 30 分に短縮可能である
- 前回投与から 6 週以上の時は初回量で行う。

(トラスツマブ)

- 初回投与は 90 分投与とし、忍容性が良好ならば、2 回目以降は 30 分に短縮可能である

(パクリタキセル)

- 過飽和状態にあるためパクリタキセルが結晶として析出する可能性があるため、0.22 ミクロン以下のメンブレンフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること
- 点滴用セット等で可塑剤として DEHP を含有しているものの使用を避けること。もしくは PVC フリーの輸液セットを使用すること
- 輸液ポンプを使用して投与する場合は、チューブ内にろ過網(面積の小さなフィルター)が組み込まれた輸液セットは使用しないこと(まれにポンプの物理的的刺激により析出するパクリタキセルの結晶がろ過網を詰まらせ、ポンプの停止が起こることがあるため)
- 本剤は非水性注射液であり、輸液で希釈された薬液は表面張力が低下し、1滴の大きさが生理食塩液などに比べ小さくなるため、輸液セットあるいは輸液ポンプを用いる場合は以下の点に十分注意すること。
 - 自然落下方式で投与する場合、輸液セットに表示されている滴数で投与速度を設定すると、目標に比べ投与速度が低下するので、滴数を増加させて設定する等の調整が必要である。
 - 滴下制御型輸液ポンプを用いる場合は、流量を増加させて設定する等の調整が必要である。
- 前投薬:本剤投与による重篤な過敏症状の発現を防止するため、必ず前投薬(H1 阻害薬、H2 阻害薬、デキサメタゾン)を行うこと